

- 28 臥竜松みどりに映ゆる子守柿
- 27 峡十戸落葉時雨の中にあり
- 26 買い物を兼ねて吟行冬帽子
- 25 側溝の落葉いつしか居ずなんぬ
- 24 口ーカル線我より先に枯葉乗る
- 23 出来立ての中金堂へ冬日燦
- 22 様変わる街に疲れて年用意
- 21 山眠り街は電飾あちこちに
- 20 仰ぎ見る透けて蒼穹冬桜
- 19 冬ざれや明治の証赤煉瓦
- 18 山頂は見せて棚引く冬の霧
- 17 同窓会老い称え合ひ菊の酒
- 16 妻を師として芋の子を洗ひけり
- 15 飛び石の鳥跡残る朝の霜
- 14 冬銀河大観覧車点滅す
- 13 あちこちから募金の声の十二月
- 12 冬紅葉俄か友達ベンチ横
- 11 鎌を手に農夫の動く冬菜畑
- 10 末っ子の産土参り冬紅葉
- 9 早々に年忘れとし集まりぬ
- 8 家普請の槌音せわし十二月
- 7 堤防の交わり揺れる枯れ芒
- 6 額には朱の大字や冬うらら
- 5 漬け込みしむべ酒琥珀に十二月
- 4 落人の里といはれて子守柿
- 3 紅葉揺れ蛸踊ること白き壁
- 2 寒菊を供へ仏壇明るみて
- 1 着膨れの犬気の毒や足もつれ